

# りんごのおはなし

蓼科高校同窓会長 芝間教男さん

実施日：令和3年10月19日（火）



第14回目は、りんご農家の芝間教男先生をお招きし、立科町のりんごの歴史や、育て方について学んだ。立科町はかつて養蚕が盛んに行われていたが、不況により農村恐慌時代に突入。そこで、りんごの将来性を見出し、農家さんたちの協力と熱意のもと、現在の形があることを知った。他にも、農機具の紹介や栽培の仕方、1年を通してさまざまな仕事があることを教えていただいた。選果場の様子も動画で見せていただき、機械と人の手で選別・出荷作業が行われ、消費者の手に渡っているのだと知ることができた。授業の最後には、「みんなが『おいしい!』と言って食べてくれるのがうれしく、作りがいを感じる。誰かに喜んでもらえることをする。そんな気持ちを高校生にも持ってほしい。」と、これから社会に出る高校生に向けて熱いメッセージをいただいた。生徒たちは、芝間さんが作っているりんごをお土産にいただき、とてもうれしそうな表情を浮かべていた。

### 【生徒の授業日誌より】

・リンゴの木を鹿が食べてしまうことを初めて聞いたので、一番びっくりした。立科のリンゴがなぜおいしいのかを聞いて、他の県などと比べて長野県はリンゴを作る条件がそろっているんだなと思った。

・りんごの種類がこんなにもあることを知ってびっくりしました。こんなにあったら味比べをしてみたいです。果物や野菜は台風などがあると木が折れたり、実が落ちたりして大変だと思いました。せっかくできたものでも落ちたものは売れなくなり、土に埋めたりすると聞いて悲しく思いました。生産量で1位は安定の青森県でしたが、2位はまさかの長野県でびっくりしました。

・立科のりんごは全国的にもかなり有名。気温の浮き沈みが激しいけれど、地域の人が土地・土壌を丁寧にととのえて、適した生産土地（環境）を作るのでおいしくなる。そして生産者の熱意が強いので、美味しいりんごがある。

・長野県のりんごの生産量が多いのは知っていたけど、全国2位ということは知らなかったのが驚いた。りんご農家さんのお仕事は育てるだけだと思っていたから、共同作業があると聞いてすごく驚いた。被害が出てしまう原因は動物以外にも台風や気温があることを初めて知った。品種を変えるために接ぎ木をするのが凄い。

・りんご作りについて改めて知ることができた。私が今まで知らなかった栽培についての方法や、接ぎ木について学ぶことができたし、選果場でどのようなことをやって出荷しているのかも詳しく知ることができてよかった。

・りんご農家の人はとても大変な仕事をしていると思いました。出荷したら終わりではなく、冬には枝の仕分けなどをしなければいけないのはとても大変だと思いました。台風の被害などもひどく受けていて、りんごの木が折れていて大変だと思いました。

・蓼科のりんごは本当においしいです。甘くて。りんごのことを全く知りませんでした。今日知れてよかったです。接ぎ木がすごいと思いました。りんごの木は1本でできていると思っていたけど、3本くらいの木の接ぎ苗木でできていることを初めて知りました。

・農家の仕事の苦労をあまり知らなかったのですが、今日お話を聞いて大変なんだと思いました。動物に食べられないよう対策を練ったり、天候の影響でリンゴの木が倒れてしまったりといろいろな苦労があることを知りました。やはり食べ物に感謝して食べることが大事だと改めて感じました。

・りんごや他の果物を作るには、生産者の熱意が大切なことを知った。その土地の性質を調べたり、研究会や果樹生産組合などをひらいてどうやったらおいしいりんごができるかを研究して、やっと今のりんごができたのがわかった。でも病気にかかったり、動物の被害を受けたりと、毎日が大変なのがわかった。

・1年中りんごのために命をかけて栽培をしているりんご農家のみなさんはすごいと思った。農村恐慌時代に有益な作物としてりんごを作ったのが立科にとっていい収入源になっていることを知れた。